



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標

いのちの輝きは
聖性の光
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年12月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第793号 (12月号)

2024年クリスマス・メッセージ 「主への旅路」



カトリック那覇教区
ウエイン・F・バートン司教

那覇教区の兄弟姉妹の皆さん

今年もまたクリスマスシーズンが巡ってきました。

年ごとに繰り返し返すクリスマスという神祕の中でも、最もポピュラーでキリスト者か否かにかかわらず、世界中の人々が祝う日となっています。それだけに、クリスマスの本来の意味やメッセージは薄められ、かえって伝わりにくくなっているのかもしれない。

それゆえ、私たちキリスト者には「クリスマス」と呼ばれる「救い主イエス・キリストの降誕」の出来事に秘められた神の恵みメッセージを毎年繰り返し祝いながら、らせん状により深く味わい、より高くその神祕そのものに出会っていく使命が与えられていると感じます。聖書に示された「主の降誕」にまつわるエピソードはいくつもありますが、今回は「三人の博士の旅」を取り上げながら、その神祕の一端に触れ、味わい、深めてゆきたいと思います。(マタイ2:1~12参照)

三人の博士は、「東の方から」来たと言書に記されています。神を見失った諸国民の間から旅立った博士たちは、星の導きに従って救い主に出会う旅路に就きます。当

時の旅は、困難と危険に満ち、それこそ命がけの行為だったでしょう。安心・安全・安定を第一に考えるならば、そのような旅はよほどのことがない限り自ら望んで行かないものでなく、むしろ、それを避けるために安寧を求め、目先の安らぎを乱す要素を排除することに力を注いでいたはずで、しかし、聖書が示す神の民の歴史を見ても、人が自らの考えや力によって安心・安全・安定を求めるとき、その陰に他者へのしわ寄せや排除が潜んでいます。

だから一時的には繁栄と安定を得られても、それを永続させることは出来ないのです。あの理想的なダビデ王朝でさえ衰退したように、そこには必ず人間の至らなさと罪が隠されているからです。同様に、現代の私たちの日常生活の陰にも多くの人の犠牲や苦しみ、悲しみや死があります。格差、貧困、差別、戦争、環境破壊、災害、難民、強制排除などの多くの課題は、私達の日常生活と決して無関係ではないはずで、

は、神に憩うまで安らぐことはないからです。ですから、様々な困難が予想され、不安に駆られたときこそ霊的な目で物事を眺め、そこに示される星の光、聖霊の導きに希望を抱き、時のしるしに示される神の招きに応えて、祈り(神との対話)のうちに信仰の旅(神への旅路)に踏み出さなくてはならないのです。変化に対する不安や恐怖を紛らわすことなく、ありのままの弱く小さな自分を認め、委ねて、神のみにより頼みながら歩み続けることにしましょう。信仰者個人としても、その集いである教会としても、真の救い主と出会い続ける信仰の旅路に勇気をもって歩み出しましょう。

だから一時的には繁栄と安定を得られても、それを永続させることは出来ないのです。あの理想的なダビデ王朝でさえ衰退したように、そこには必ず人間の至らなさと罪が隠されているからです。同様に、現代の私たちの日常生活の陰にも多くの人の犠牲や苦しみ、悲しみや死があります。格差、貧困、差別、戦争、環境破壊、災害、難民、強制排除などの多くの課題は、私達の日常生活と決して無関係ではないはずで、

自ら敢えて危険や困難を望んでいたわけではなかったはずですが、しかし、それでも目先の安心・安全や居心地の良さを失う覚悟がなくては、決して旅立つことはできなかつたはずで、だから時として、旅の途中の不安や危険、困難や恐怖に怯え、元の場所や状態に逆戻りしたかったことでしょう。しかし、それでも歩みを前へと進めることができたのは、日常の安定と居心地の良さに満足せず、輝く星の光に理想を見出し、神の招きに希望を抱き、神に聴くこと、それに応えること、すなわち神との対話、祈りのうちに歩んだからでしょう。

いまの状態にとどまることなく旅立つこと、神への歩みを決してやめないこと、たとえ死の陰の谷を歩むことになったとしてもその歩みを止めないこと、霊的な旅路に身を置くこと、信仰の旅の途上につねにとどまることで、その先にはなく、その行程のすべてが主の平和に満ち満ちた、神からの恵みの時となるでしょう。この道は主への道、この道は主からの道、主こそが道そのものなのだから。

博士たちが暮らしていた「東の方」は、文明が発達した地域で、決して劣悪な場ではなかったと思われまふ。彼らが「博士」と呼ばれることからしても、三名はそれぞれに高貴な立場だったこともうかがわれます。それでも、その場は神を知らず、人の力や考えが支配する地域で、物質的には繁栄し何

このような旅立ちと歩みがなければ、彼らは救い主に出会うことはできなかつたはずで、肉としての私たちは、常に物質的に安定することを求めてしまいがちですが、霊としての私たちは物質的な安定だけに満たされることはありません。神の似姿としての私たち

皆さんお一人おひとりが、また私たち教会共同体が、真の救い主である幼子イエスと出会い、その祝福と平和と喜びにみたまされた神への道である主イエスと共に常に在らんことを。アーメン。

2024 Christmas Message ~ Bishop Wayne "The Journey in Search of the Messiah"

Brothers and Sisters of Naha Diocese,

The Christmas season has come around again this year. Among the mysteries of Christ celebrated every year, Christmas is the most popular day, celebrated by people all over the world, whether they are Christians or not. However, since Christmas is fundamentally a Christian celebration, as Christians we have a special mission each year to savor the message of God's grace hidden in the event of the birth of the Messiah.

There are many episodes related to the birth of the Messiah written in the Bible, but this year I would like to deepen our understanding of a part of the mystery of the birth of the Messiah by taking up the journey of the Wise Men. Scripture records that the Wise Men came from the East. Traveling at that time was full of difficulties and perils and could be a life-threatening endeavor. If peace of mind, safety, and stability were considered paramount to them, they would not have undertaken such a journey. They were not looking for security, they were searching for the meaning of life by finding a Messiah. They did not know it at the time, but the Messiah they were looking for was Jesus.

The East where the Wise Men lived comfortably was a region of advanced civilization, and was by no means a poor place. It seems that the Wise Men were of a certain level of nobility. Nevertheless, it was a region where God was not known, and where human power and ideas ruled. Although they prospered materially and lived without want, it was not an ideal world full of love and compassion, but a world built on the sacrifices of the poor. They were able to recognize the deception and falsehood of the world in which they lived. They set off on their journey because they found in the light of the stars an invitation from God. They wanted more than only their culture could offer them. They wanted the ideals and hope that God showed them; they wanted a Messiah; they wanted to know how to live and how to have eternal life.

Only God could give them what they wanted and so they went on a journey in search of a Messiah who could show them the way to God. In the end, after much traveling and many difficulties, after being deceived by Herod and after having consulted the Scriptures, they found what they were looking for in Jesus. They were changed by their journey. They returned home by a different road. Jesus became their road. They did not need an external star to light their way; they now had the light of Jesus within their hearts to guide them. They had found their Messiah.

We too are on the same journey, the search for our Messiah. We need to acknowledge that we need a Messiah; someone to show us the way we should live. To find the Messiah is the goal of human life. To search for the Messiah gives our life meaning. Because we have been made in God's image by our Creator, we cannot have true rest and real peace until we rest in God. Jesus is the Way, the Life and the Truth. He is our true peace of mind; he is our safety; and he is our stability. The Wise Men learned this from their journey. We too must discover this same truth during our own life's journey as well!!! No one can do this for us; only each person can decide to undertake the journey to find God themselves.

Have a wonderful Christmas. May the true Messiah guide you on your life's journey. You will all be in my prayers and remembered at my Masses on Christmas day. Say a prayer for me as well.

Happy Christmas!!!



2024年11月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2024年11月5日(火) 14:30~16:00 於・宮古島平良教会・みつば幼稚園ホール

※離島での開催、今年は宮古島平良教会にて。ウェイン司教が、先に帰天された有馬神父様への追悼の祈りを唱えて開会した。

1. 報告及び連絡事項: 司会はナビーン神父が担当。
 - ・会議に先立って、平良教会主任のヨアキム神父から歓迎の挨拶が行われた。
 - ・前回(10月会議)の報告を新田が行い、承認された。
 - ・出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - －マイケル神父、10/28~11/29、休暇。
 - －ピーター・チェ神父、11/29~12/19、休暇。
 - －古川神父、有馬神父様の葬儀日程のため司祭会議は欠席。修道会式典出席のため11/9~10日、東京へ。
 - －藤澤神父、修道会式典出席のため11/9~11日、東京へ。
 - －ロドニー神父、10/23~12/1、休暇。
 - －ウェイン司教、11/17~11/23、東京。
 - ・マーシーさんから金沢で行われたカリタス・ジャパン全国担当者会議について報告が行われた。沖縄で行っている取組について報告し、ビーチクリーン活動等の市民団体との共同活動への取組が評価された。また、単一県の教区となっているので、他教区と比べて動きやすいという利点に気付き、他所の教区の取組を聞きながら、今後沖縄で可能な取組のヒントも得ることができ収穫の多い集いであったことが報告された。
 - ・10/23、24日に熊本で行われた長崎教会管区会議について、沖縄から出席したウェイン司教とクレーバー神父、津波古事務局長から報告が行われた。会議は熊本の手取教会で開催され、今回が2回目となる。長崎管区に所属するそれぞれの教区から課題と現状が報告された。特に今後の司祭の不足と召命の減少は共通の課題でもあり、旧神学院の活用方法などを含め、解決に向けての取り組みを進めていくことを確認し合った。
 - ・サニー神父から、10月26日に、仙台教区のガクタン・エドガル司教をお迎えして行われたGFCの集いについて報告が行われた。ガクタン司教は、日本で生きる外国籍の人々のため、キリスト者としてどう関わっていけるかを問いかけ、様々な事例をあげて今後の展望を示唆した。講演後は、フィリピン人共同体の歌やダンスと言った様々な余興が披露され、盛会のうちに集いを終えたことが報告された。
 - ・ブイ神父から韓国で行われた青年の平和集いに、那覇教区から7名の青年たちと一緒に参加してきたことが報告された。カトリック北東アジア平和会議(CINAP)の呼びかけに応じて参加されたもので、先の大戦の悲惨さを振り返りつつ、特に北東アジアの平和を構築していくために、どのような展望を持って共に歩んでいけるのか、それぞれの意見を分かち合った。報告を受け、ウェイン司教からは、沖縄と韓国は戦時下の状況が似ているところもあり、交流しやすい利点もあるので、今後も交流を続けられたら良いとの意見が寄せられた。
 - ・マキシム神父から、10月3日に小祿教会で行われた、アシジの聖フランシスコの祝日の前夜にフランシスカンで伝統的に行われるトゥランジトゥスという行事について、また10月6日に小祿教会で行われたバザーについて報告が行われた。
 - ・ナビーン神父から、11月3日に普天間教会で行われたバザーの報告もあり、沢山の人が参加されて、成功裏に終えることができたことが報告された。
 - ・藤澤神父から石川教会の聖ヨゼフ像が倒れて壊れてしまったので、修復を予定していることが報告された。
 - ・クレーバー神父から、11月10日開催の与那原教会のバザーへの招きが行われた。また、県民クリスマス会が、今年は12月8日17:00より胡屋バプテスト教会で行われることも合わせて報告された。
 - ・リカルド神父から9月29日に読谷教会で行われた聖ロレンゾ・ルイス祭への参加への感謝と報告が行われた。ウェイン司教をお迎えして、ミサの中で堅信式や初聖体が行われ、ミサの後はコンサートが行われ盛会のうちに終えたことへの感謝が伝えられた。
 - ・フランシス神父から、11月9日(土)に教区女性の会の研修会が行われることと、南部地区の小教区が合同で子ども達のための待降節黙想会を計画していることが報告された。
 - ・具志川教会の納骨堂設置の計画については、役所等の許可や設置基準等のクリアなどの課題があり、更に中北部地区のために設置されている石川の天の門納骨堂に複数空きがあること等から、そちらの利用を進めるよう指示がなされた。
 - ・各小教区の予算と決算については、掲示板に張り出す等して広く信徒たちが確認できるようにするよう教区から要請があった。
 - ・浦添市港川に教区が有していた修友館の土地建物は予定通り売却され、教区の手を離れたことが報告された。
 - ・教区のWebサイトには、常に最新の各小教区のミサ時間等のお知らせを掲載するよう要請が行われた。
 - ・11月初旬にメールにて通知した「旧 福岡カトリック神学院での司祭の集い」について、通知が届いていないとの誤認があり、再度通知したことが報告された。今後は教区からのメール等の通知には、確実に目を通されるよう強く要請がなされた。
 - ・故人のたつての希望に従い、開南教会で執り行われた有馬神父様の葬儀ミサについて報告がなされた。また、有馬神父様のご遺体の火葬式の日程が報告され、11/7(木)9:00出棺の祈りの後、教会から火葬場へ送る際、聖堂から霊柩車への移送に司祭たちの協力が要請され、火葬及び具志頭の納骨堂での納骨にも参列が呼びかけられた。
2. 審議事項
 - ・教会会計研修会は当初予定していた日時での対象者の全員出席が不可能となったため、改めて全員が出席できる日時を協議した。いくつかの日時を検討した結果、公休日にあたる2025年1月13日(月)13:00~15:00に決定した。少なくとも主任司祭、信徒会長、会計担当者の参加を予定するように。また、宮古島と石垣島からの参加者の航空運賃については、教区が負担する。
 - ・2025年聖年について、担当のヨアキム神父から報告が行われた。那覇教区では12月29日14:00から、司教座聖堂である開南教会において開幕式のミサを捧げるので、司祭たちには信徒たちへの周知と、教区報への掲載をお願いしたい。開幕のミサはその主日の聖家族の典礼を用いる。なお、聖年の開幕に合わせて「聖年の祈り」のカードを作成して各小教区に配布するので、期間中、ミサの終わりにお祈りくださるよう提案がなされた。
 - ・司教や教区司祭達のための墓については、今回の有馬神父様を含め、現在は別々の場所に納骨されているが、時間をかけて引き続き安里の納骨堂内に教区墓を設置する方向で、検討を進める。
 - ・ウェイン司教の予定について、マーシーさんから報告が行われた。11/10(日)開南教会ミサ。11/24真栄原教会公式訪問。12/5愛楽園公式訪問。

※次回司祭助祭拡大会議は12月3日(火)午前10時から、安里の教区センターで開催される。

2024年11月23日 承認: ウェイン・フランシス・バートン司教 記録: 新田 選



いつ訪れますか

マキシム・デソーザ神父

小祿教会 主任司祭

ことだと思いません。メディアが中立を守りながらニュースを伝えればいいのに、片寄った原理主義の見方をする正しき情報が流れてこないのがまた残念な事実です。現代社会でメディアの役割が大きいのですが、現場の情報をありのままに伝えてほしいです。何も付け加えず真実を伝えてほしいです。メディアが誤った情報を流すと大



二千年前、イエス様が生まれた時代はどんな時代だったのでしょうか。平和な時代だったのでしょうか。違います。ローマ帝国がすべての権力を持つて周りの国々を支配し、圧迫していました。

に平和が訪れますか」というのは、その時代と今の時代が変わらないというのが真実です。そういう時代背景にヨセフとマリアが自分たちの名前を登録するために旅を始めています。ナザレの町は小さな町です。ナザレからユダヤのベツレヘムまで長い距離です。すべてをローマの支配下にするために、様々なことを一般人はさせられていたというのが事実です。さらにいえば、聖書には、「ナザレでメシアに会った」と言ったらみんながざざ笑って「ナザレからよいものが出るだろうか」という見下した発言もあります。

皆さん、神様が、いちばん貧しい赤ちゃん、しかも馬小屋で生まれた赤ちゃんを私たちのところに送られたのです。馬小屋というのは美しい場所ではありません。汚い場所です。そこに生まれた赤ちゃんはもちろん貧しいですが神様です。これが信仰者としての押さえておくべきポイントです。ヨハネ福音者は序文に次の通りに書いています。「はじめに言葉があった。言葉が神とともにあった。言葉が神がなった。」ヨハネは言っているのです。この方は普通の赤ちゃんではなく神様です。天地万物を創造された神様です。この方は神様のエッセンスです。一世紀の人たちの叫び声も含めて神様が答えた、赤ちゃんです。全

我々はどういう時代に生きているかという、二十一世紀になっているのに、抱えている問題が多い時代だと思えます。現在の社会情勢を見ると、ウクライナとロシア戦争がずっと続いていて、いつこの戦争が終わるのか。それに一年前からイスラエルとハマス、ヒズボラとの戦い。互いに殺し合っている姿を見ていると、これらの映像が実際の映像なのかと疑問に思うときがあるのですが、後からニュースで同じ映像が流れて本当の映像だと知って絶望する時があります。紛争、戦争以外にも大きな課題があるなかで、暴力、内戦、紛争、戦争は早く終わってほしいというのが誰でも求めている

惨事になりかねません。前向きな、希望につながる話題を発信してほしいです。暴力、戦争と同じ価値観を持つ国々が集まって悲惨な状況にさらされる可能性も否定できません。このような状況で、信仰者として「主よ、あとのぐらいつたなければなりませんか、いつになったら訪れてくださいますか、いつこの世界の情勢が改善されるのでしょうか」というのは誰でも思っていることです。

その時代にはサドカイ派の見方とファリサイ派の見方で分かれていたし、ローマ政府の方針を支持する人たちがいれば、宗教上の思いから問題に巻き込まれないように社会から離れた生き方を選ぶ人もおり、原理主義の考え方を持った人たちは熱心に自分たちのイデオロギーを生かそうとしていました。一言で言うと、社会が完全に分かれていたということ間違いなく思っています。「主よ、いつこの世界

ことがわかります。主よ、後どのぐらいつたなければなりませんか。いつになったら地上に来て改善してくださいませ。人間が叫ぶ願いの声に神様はどのように答えられたのでしょうか。そうです。小さな赤ん坊を与えられることによって答えられたのです。我々の家族に赤ちゃんが生まれたらその赤ちゃんが注目されます。赤ちゃんが家の輝く星です。家族の中に様々な問題などを抱えていても、赤

ちゃんが生まれた瞬間私たちはすべての課題を忘れて赤ちゃんを大切にします。すべての話題が赤ちゃん中心の話題に変わります。普通の家族の普通の赤ちゃんならそれまで話題にならなくとも、もし問題を抱えている、例えば貧困、病気を抱えている赤ちゃん、難民状態にある赤ちゃんなら、なおさら私たちの問題を脇に置いてその赤ちゃんに注目します。

世界の救い主、贖い主です。私たちの世界を改善するように神様から送られてきた救い主です。あなたの慈しみの愛でこの世界を改善回復してください。言葉が馬小屋で人になられています。言葉が赤ちゃんになられました。今天国ではなく、私たちの身近に神の言葉、神のエッセンス、神のマインド、逆に神様が赤ちゃんになられて私たちの顔見て笑顔を作ってくださいました。神様の永遠の知恵で全世界をこの赤ん坊の周りに集めてくださいました。これこそクリスマスです。

この方こそ本当の王様。地上の王様を敬うことをやめなさい。馬小屋に生まれてきた赤ん坊こそ本当の王様です。この本当の王様の周りに集まって、その口から出る言葉に耳を傾けましょう。この赤ん坊の周りに集まっていたときにあなたと私が地上で一番強い軍隊のメンバーになつていくということです。

困っている子供達、難民状態の子供達の顔を見るたびに、馬小屋に生まれたキリストの顔を浮かべ、その方の言葉を思い起こしましょう。我々が生きていくこの世界に我々の家族に平和があるように願いましょう。

たて軸よこ軸

教会と僕

普天間教会 パウロ川村拓也

私は信者の両親の下に産まれ普天間教会で幼児洗礼を受けました。当時、ウエイン神父(司教)様が普天間教会の主任司祭をされていて、お御堂でチョコチョコと走り回る私を抱っこしながらミサをあげてくださったことがあると、今も母が嬉しそうに話してくれます。

その後母の地元である石垣島に引越し、海星小学校に入学し、石垣教会に通うようになりました。そのため幼い頃の私にとって教会はとても身近な存在で、自然に教会での学びや思い出が増えていきました。

高校卒業後、進学、就職のため内地で生活を送りました。急に始まった都会での生活は、世間知らずの私にはとても衝撃的でした。都会の厳しさ、冬の寒さ、初めて満員電車で乗った時の絶望(笑)など、今でもよく覚えています。

当時は慣れない環境で自分の居場所を作るのに必死になっていました。特に社会人になってからは、早く一人前になりたい、自分を認めてもらいたいとばかり考え、すっかり教会と距離ができてしまいました。毎日忙しい、内地の空気に馴染むのは大変、など都合のいいように考え、甘えていたのかもしれない。

そんな中、四年前に父が急逝しました。当時沖繩本島で仕事をしていた父の葬儀ミサは、ゆかりのある普天間教会でウエイン司教様にあげて頂きました。

気持ちの整理もつかず、不安に潰されそうになりながら久しぶりに訪れた普天間教会で、久しぶりにお会いしたウエイン司教様が『息子よ』と言って抱きしめて下さいました。その時に感じた大きな安心感と、教会と離れてしまっていた事への申し訳なさ、迎え入れて下さったことへの感謝は忘れることができません。

父の死をきっかけに、内地での仕事に区切りをつけ、現在は妻と娘二人で沖繩で暮らしています。今年の四月に妻と娘達が揃って洗礼を受けました。またミサ中じっとしていられない娘達ですが、ナビーン神父様やシスター、普天間教会の皆さんに可愛がって頂き、一緒に育てて頂いています。小さい頃の私自身もこうやって教会の皆さんに支えられ、育ててもらっていたのだと、と実感し感謝でいっぱいです。

私のような甘えん坊な人間でも『おかえり』と迎え入れてくれた教会へ。辛い時に寄り添ってくれてありがとう。嬉しい時に祝ってくれてありがとう。甘えん坊を克服し恩返しをしなくては、と思つていきます。

2025年聖年の公式聖歌
 “Pilgrims of Hope” [希望の巡礼者] 日本語版が発表されました。
 カトリック中央協議会からダウンロードいただけます。

Catholic Bishops' Conference of Japan
 カトリック中央協議会



那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク

相談窓口 ☎098-863-2020 (火・水・木 13:00~17:00)




2025年 聖年開幕ミサ

場 所：開南教会 (那覇教区カテドラル)
 日 時：12月29日(日) 14時~
 主 式：ウエイン司教

◆那覇教区	マテオ 有馬 馬瓊 神父 様 2024年10月29日帰天 享年93
◆名護教会	パウロ 野原 直 様 2024年11月4日帰天 享年88
◆具志川教会	マリア 石川 時子 様 2024年11月16日帰天 享年89
◆首里教会	フランシスコ・ザビエル 島袋 永三 様 2024年11月17日帰天 享年92

カリタス沖縄の活動報告 カリタス沖縄とていだ結の浜のコラボビーチクリーン

◆ 十一月十六日(土) 午前九時半から、ていだ結の浜(サンエー浦添西海岸パルクシティ前)の海岸沿いをカリタス沖縄と美ら海を未来に残したいうちなーんちゅの会の方々と一緒にビーチクリーン活動をしました。お天気もよく少し汗をかくぐらいの陽気で参加者の皆さん清掃活動を楽しく取り組みました。清掃中に通りがかった方から最近の清掃でゴミ袋五十袋回収したと伺ったのですが、それでも十もゴミ袋に自転車のタイヤやゴムチューブや釣竿などの釣り道具など沢山のゴミを回収する事ができました。

私は今回初めてカリタス沖縄の活動に参加しました。活動報告などみて、いつか参加したいと思っていましたが、声をかけていただき参加できてボランティアの活動を通してみんなで汗しながらひとつの共同体として活動してゆくことの大切さを感じる事が今回の私の収穫です。カリタス沖縄のいろいろな活動にもこれから参加していきたいです。(今井真由美)



◆ ビーチクリーンに行つて来まして、カリタス沖縄のボランティアチームのみなさんとコラボ。みんなとっても優しく、自ら率先してゴミの運搬もしてくれる素敵なたちでした。またぜひ一緒にやりたいねって話しをしました。

今回は普段皆があまりやらない橋の下からやったので、ものすごく沢山のゴミを集めることができました。ほんとに気持ちよい朝を過ごすことができましたので、カリタスの皆様、許認可担当の港湾部局、優しくゴミ袋を提供してくれた浦添市、收拾してくれた業者さんなど、今回関わってくれた皆さんに感謝します。(ていだ結の浜代表 大山盛嗣)

クリスマス おめでとうございます Merry Christmas



那覇教区

子どもクリスマスパーティー Naha Diocese - Children's Christmas Party

日：2024年12月28日(土) December 28th 2024 (Sat.)
 時：13:30 ~ 17:30 1:30 PM - 5:30 PM
 ところ：カトリック安里教会 Asato Catholic Church

❖ みんな招待されてるよ ❖
 ❖ YOU'RE ALL INVITED ❖

教区 NEWS 教会

遠い国からのお客さま 与那原教会

去る九月二十二日、アルゼンチンから宮里昌利氏(写真後列左から三人目)のご家族が訪れ、共にごミサを捧げました。父親、故宮里昌栄氏がアルゼンチンに渡り、空手道場を開いて六十五年。その歩みに感謝の祈りを捧げました。長きにわたり、共に心身の鍛錬に励み、お年を召された門下生を家族として迎え、支えておられ、「ゆいまる・イチヤリパチョーデー」を実践しておられます。

門下生を含め、総勢八十四名が来沖し、十月十九日には、



「志導館 宮里空手道場六十五周年式典及び祝賀会」を、西原町の協力の下、同町さわふじホールで盛大に執り行うことができました。

空手演舞に先立ち、全員で「忍び忍びしや、たーがんやていん忍ぶ。忍ばらん忍び、忍びしどう忍び」を方言で唱和し、沖縄の心を広く伝えておられました。「意味・忍耐できるところで忍耐するのは本当の忍耐ではない。忍耐できないところで忍耐するのが本当の忍耐である。」

今後の目標は、空手発祥の地であり、先祖代々受け継いだ地に「志導館宮里空手本部道場」を開設することです。

これからの歩みに、神さまの豊かな祝福を祈ります。

ごミサの後、教会のみなさんに紹介され、ささやかな交流もありました。普段は遠く離れて暮らしている私たちが、同じ聖堂で、同じ神さまに、同じごミサを捧げてお祈りできたこと、感動です。

神さまの愛にあふれた導きと、このご縁に感謝いたします。

(比嘉葉子)

司教様公式訪問

真栄原教会

十一月二十四日の「王であるキリストの祝日」は真栄原教



会の記念日に当たり、ウエイン司教様の公式訪問がありました。
 記念ミサは、デニス神父様との共同司式で十時より捧げられました。司教様は説教の中で、次のように語られました。この世の王様と王たるイエス様の決定的な違いは、親が子どもに与えるような無私の愛を私達に与えてくださることにある。私達は愛されることで生きる力が湧き、幸せになれる。
 また、イエス様の教えに従って人を大切にすると、自分自身も幸せになり、死をも恐れないように

なる。今日をイエス様と自分との関係を考える機会としましょう、と結ばれました。ミサに引き続き、僅かな時間でしたが、語らいの場と食事会を持つことができました。ウエイン司教様、これからも私達をお導きください。よろしくお願いたします。(千村次生通信員)

司祭会議と交流会

宮古島平良教会

去る十一月五日火曜日の午後、教区内の司祭たちが集まって、こ宮古島平良教会で司祭会議が開催された。二年に一回、石垣教会と交互に離島で司祭会議が開かれている。この機会に、宮古島の信徒たちとも交流の機会をもつていただきたいと、司祭会議の後は信徒たちが準備して持ち寄った宮古島の料理やフィリピンやベトナムの多国籍の料理、歌と踊りとで司祭たちとの交流を深めた。翌朝のミサはウエイン司教と司祭たちが「死者の月」に合わせて、宮古島教会の先人達や恩人、友人達のためにミサが捧げられた。ミサの後にはバスをチャーターして、複数の信徒たちの案内で風光明媚な宮古島の自然を見て回りつつ、こうした豊かな自然のすぐ隣で進められている弾薬庫の建設現場を見渡せる地域にも足を運んでいただいて、宮古島の現状をご覧頂き、宮古島での全日程を終了して帰路に着かれた。(かさね通信員)



12月
一日黙想会へのご案内

指導司祭：押川壽夫司教
 テーマ：**聖書に親しむ**

日時：2024年12月14日(土) 受付 9:30
 講話：10:00～11:00
 休憩：11:00～11:15
 個人黙想：11:15～12:15 (ゆるしの秘跡・希望者)
 昼休み：12:15～13:00
 分かち合い：13:00～14:30
 ミサ：15:00～16:00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
 聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会
 連絡先：098-945-2354 098-945-8649

葬祭の「やすらい企画」



私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3
 TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
 E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間 受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
 そうてんしゃ

葬典社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
 (実務担当) 比嘉 高茂

24時間 受付

てんごく
☎098-853-1059



主日・クリスマス・新年のミサ時間案内 Mass Schedule

教会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新年 NewYear	司 祭 Priest	TEL
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(火)	25日(水)			
名 護 Nago	10:00		19:00	19:00	31日 19:00 1日 10:00	マイケル・ヴィン師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00				8:00	マイケル・ヴィン師	0980-52-8379
読 谷 Yomitan	8:00 10:00		19:00	11:00	31日 19:00 1日 11:00	リカルド・ブガス師	098-956-3789
石 川 Ishikawa	9:30		19:00	9:30	1日 10:00	藤澤幾義師	098-864-2084
具志川 Gushikawa	9:30		19:00	9:30	31日 19:00 1日 9:30	サニー・カンティラーノ師	098-974-3643
泡 瀬 Awase	9:30		19:30	19:30	31日 6:30 三が日 9:30	ヨゼフ・ブイ師	098-937-3598
コ ザ Koza	8:30		19:00	8:30	10:00 ミサ後、車の祝福	ピーター・チェ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00	英語ミサ 18:30	19:00	9:00	31日 19:00 1日 9:00	ナビン・セクウェーラ師	098-892-2503
真栄原 Maehara	10:00		19:00	10:00	1日 10:00	デニス・フェルナンデス師	098-897-7484
首 里 Shuri	9:00		9:00	19:00	9:00 ミサ後、車の祝福	ボスコ・ティン師	098-884-4787
安 里 Asato	9:00	19:00	19:00	9:00	9:00	フランシス・ティエン師	098-863-2021
開 南 Kainan	9:30		9:30	15:00	9:30	古川政孝師	098-832-3037
小 禄 Oroku	10:00	19:00	19:00	10:00	10:00	マキシム・デソーザ師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	9:00		19:00	19:00	三が日 10:00	クレーバー・ディ・ソーザ師	098-945-2355
大 里 Ozato					12:00		
宮古島平良 Miyakojima	9:00		19:00	9:00	1日 9:00	ヨアキム・ホアイ師	0980-72-2445
保 良 Bora	12:00		12:00	12:00	12:00	ヨアキム・ホアイ師	
石垣 Ishigaki	10:00		18:30	10:00	31日 18:30 1日 10:00	ロドニー・モンディド師	0980-82-2322

※南静園のミサは現在休止中です。

※スペイン語ミサは来年以降の予定が未定のため、掲載を見合わせています。